

令和6年度「とちぎっ子学習状況調査」の結果概要について

宇都宮市立鬼怒中学校

家庭や地域から「信頼される学校」であるためには、学校の状況や生徒の実態を保護者や地域の方々に十分御理解いただく必要があります。その上で、家庭や地域と一体となって生徒を育てることが大切であると考えています。

こうした考えから、令和6年度「とちぎっ子学習状況調査」における本校生徒の学力や学習状況の概要について、以下のとおり公表します。

また、調査結果は、学習指導の工夫・改善に役立てることが大切ですので、調査結果の分析、指導の改善策などを併せて掲載します。

【調査の概要】

1 目的

本県児童生徒の学力や学習の状況等を把握・分析し、児童生徒一人一人の課題を明確にするとともに、各学校が組織的に学習指導における検証改善サイクルの構築・運用に取り組むことにより、本県児童生徒の学力向上に資する。

2 調査期日

令和6年4月18日(木)

3 調査対象

小学校 第4学年、第5学年（国語、算数、理科、質問紙）

中学校 第2学年（国語、社会、数学、理科、英語、質問紙）

4 本校の実施状況

第2学年	国語148人	社会149人	数学148人
	理科149人	英語149人	

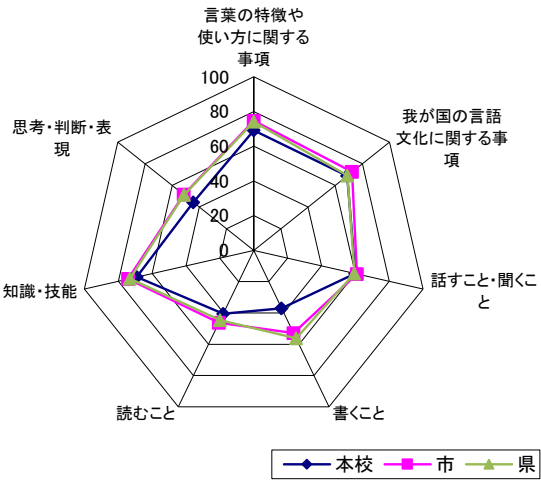
5 留意事項

- (1) 本調査は、対象となる学年、実施教科が限られていることや、必ずしも学習指導要領全体を網羅するものでないことなどから、本調査の結果については、生徒が身に付けるべき学力の特定の一部であることに留意することが必要となる。
- (2) 本校の傾向等を分かりやすく示すために分類・区分別の平均正答率などを公表した。
- (3) 平均正答率の数値は調査結果のすべてを表すものではないため、「本年度の状況」、「今後の指導の重点」などの分析を併せて記載した。

宇都宮市立鬼怒中学校 第2学年【国語】分類・区分別正答率

★本年度の県、市と本校の状況

分類	区分	本年度		
		本校	市	県
領域等	言葉の特徴や使い方に関する事項	69.1	74.7	74.1
	我が国の言語文化に関する事項	68.9	72.5	69.1
	話すこと・聞くこと	60.0	60.9	59.5
	書くこと	37.0	52.8	56.2
	読むこと	40.5	46.2	44.5
観点	知識・技能	69.1	74.2	73.1
	思考・判断・表現	44.5	51.5	51.2



★指導の工夫と改善

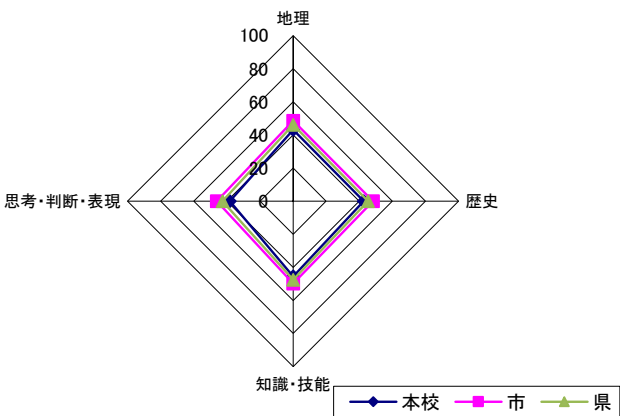
○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

分類・区分	本年度の状況	今後の指導の重点
言葉の特徴や使い方に関する事項	平均正答率は市より5.6ポイント低い。 ○漢字の読みに関しては、市・県の平均正答率には及ばないものの、問題によっては9割以上の正答率である。 ●漢字の書き取りの問題については、平均で7ポイント以上市の正答率を下回っている。	・漢字の読み書きに関しては、1学年時から継続して補助教材を活用して漢字練習や漢字テストに取り組んでおり、徐々にではあるが向上が認められる。今後も継続していく。 ・漢字テストの答案配付時には必ず答え合わせとともに、漢字そのものの意味やその他の使い方などを学習し、語彙力の向上に努めている。 ・敬語の学習に関しては2学年の6月に実施した内容であり、敬語の適切な使い方だけでなく「尊敬語」「謙譲語」などの知識を問う本検査(4月実施)では力は発揮できなかったと思われる。
我が国の言語文化に関する事項	対象となる問題数が2問のみであるため、これだけで本校の状況を判断するのは妥当ではないが、平均正答率は市より3.6ポイント低い。 ●歴史的仮名遣いの問題では、平均正答率は市より3.1ポイント低い。 ●書写(行書の筆遣いの変化)の問題では、平均正答率は市より4.0ポイント低い。	・歴史的仮名遣いに関しては、古典の単元で集中して学習するだけでそれ以外の単元では触れないため、時期を外れると忘れてしまう。今年度はより本格的な教材の学習となるため、時間をかけて身に付けさせたい。 ・書写の「行書の学習」では、行書の特徴を理解して実際に毛筆で書くことはできて、文章で説明することや説明されたものを理解する力が不足していると思われる。毛筆書写特有の言葉に慣れさせたい。
話すこと・聞くこと	平均正答率は市より0.9ポイント低い、県より0.5ポイント高い。 ○話し手の話し方を判断する問題においては、正答率が市より6.9ポイント高い。 ●条件に従って話し合いの結論を書く問題において、正答率は市より5.3ポイント低い。	・日頃の話し合い活動や発表などの学習で、話し合うことや意見の伝え方などには慣れてきてはいるものの、それを文章化したり文章化したものを読んで理解したりする力に課題があると感じる。複数の領域をまたいだ学習方法を工夫し、実施していきたい。
書くこと	平均正答率は市より15.8ポイント低く、すべての領域の中で最も低い。またすべての領域の記述式問題でも、平均正答率は市より11.3ポイント低い。 ●グラフを読み取り、160字以上200字以下で作文を書くことにおいて、正答率は4割に満たず市の正答率より20.2ポイント低かった。	・日頃の文章を書く授業では、テーマを理解し十分に書く時間を取れば多くの生徒は書くことができるため、課題の読み取り方や目の付け所などに留意させる指導を行う。 ・定期テストでは、自分で考えて文章で答える問題を必ず出題するようにし、慣れさせる。
読むこと	平均正答率は市より5.7ポイント低い。 ●問題形式が選択式のものについては比較的高い正答率となっているが、記述式の問題については無回答率が5割に上るものも見られる。	・「比喩の表現の効果」に関する問題に関しては比較的正答率が高いため、「比喩」という言葉やその役割などを、知識として身に付けていると考えられる。詩や短歌の授業を通して繰り返し学習したり、実際に自分の表現の中で用いたりすることで知識が着実に身に付くため、今後も実践したい。

宇都宮市立鬼怒中学校 第2学年【社会】分類・区分別正答率

★本年度の県、市と本校の状況

分類	区分	本年度		
		本校	市	県
領域等	地理	43.1	48.6	46.2
	歴史	42.7	48.3	45.3
観点	知識・技能	45.5	49.8	47.5
	思考・判断・表現	38.2	46.1	42.7



★指導の工夫と改善

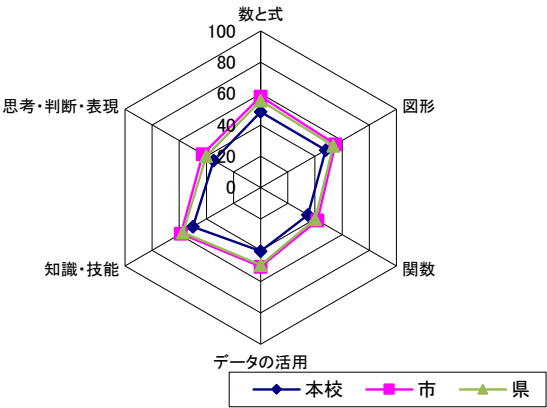
○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

分類・区分	本年度の状況	今後の指導の重点
地理	本校の平均正答率は、市の平均を5.5ポイント、県の平均を3.1ポイント下回った。 ○空欄に当てはまる大陸の名称を答える問題の平均正答率は73.2ポイントであり、市の平均を9.4ポイント上回った。このことから、六大陸と三海洋の位置関係について正しく理解してる生徒が多いことがわかる。 ○インドネシアの国土面積と、領海と排他的経済水域を表した図として正しいものを選ぶ問題の平均正答率は、市の平均を5.7ポイント上回った。世界各国の国土面積と、領海と排他的経済水域の面積の相対的な特徴について理解しているといえる。 ●複数の資料から読み取れる内容を基に、リビアの経済が抱える課題を考えて記述する問題の正答率は、市の平均を18.5ポイント下回った。複数の資料から読み取った内容を関連付けて考察し、アフリカ州のモノカルチャー経済の課題について表現することができていない。 ●上記の複数の資料を扱う問題の無回答率は43ポイントであり、市の平均よりも16.4ポイント高い。記述式の問題の正答率も市の平均より13.1ポイント低く、記述問題に対するの苦手意識が高く、無回答になってしまう生徒が多くいることがわかる。	・資料から読み取ったり、分布を解答したりするなどの資料と知識とを結びつける力が弱いので、地図帳や資料集を利用し、視覚的に理解が深められるようにする。 ・社会的な思考・判断・表現の領域が弱いので、この領域の指導を考えていきたい。 (1) 地図帳や資料集等を利用して、原因と結果、またその理由を考えさせる。 (2) 多面的多角的に捉えるために、グループ学習を実施し、思考力の育成を図る。 (3) (1)、(2)の結果、考えたことを自分の言葉で書かせ、語彙力の向上を図る。
歴史	本校の平均正答率は、市の平均を5.6ポイント、県の平均を2.6ポイント下回った。 ○室町時代の社会についてまとめたメモの2つの空欄に当てはまる語句の組み合わせとして正しいものを選ぶもんだいの平均正答率は、市の平均を3.5ポイント上回った。室町時代の社会では、農民や商工業者がそれぞれ惣や座といった組織を作り、結びつきを強めた様子について理解していることがわかる。 ●平安時代から鎌倉時代初期の武士に関するできごとについて述べた文を古い順に並べ替える問題の平均正答率は、市の正答率も11.2ポイントと低いが、本校の平均正答率は8.1ポイントと、さらに低い数値となっている。武士が台頭してきた時期のできごとについて、人物・内容・年代が把握しきれないという課題が見られる。 ●承久の乱による鎌倉幕府の支配の変化の内容を考えて記述する問題も無回答率は53ポイントであり、市の無回答率の平均を12.6ポイント上回っている。複数の資料を基に国内に起きた変化を空欄に記述する問題だが、上記の地理同様に記述問題に対する苦手意識が高いことがわかる。	・社会的な思考・判断・表現の領域が弱いので、この領域の力の育成を考えていきたい。 (1) 資料集等を利用して、原因と結果、またその理由を考えさせる。 (2) 時代を大観させ、時代の流れや外国との関係をつかませる。 (3) 多面的多角的に捉えるために、グループ学習を実施し、思考力の育成を図る。 (4) (1)、(2)、(3)の結果、考えたことを自分の言葉で書かせ、表現力を高める。 ・既習内容の定着を図るために、各单元の中で既習の各時代について触れるなど、社会的事象についての知識・理解の力を定着させたい。

宇都宮市立鬼怒中学校 第2学年【数学】分類・区分別正答率

★本年度の県、市と本校の状況

分類	区分	本年度		
		本校	市	県
領域等	数と式	48.3	58.2	55.5
	図形	47.9	55.1	53.5
	関数	34.9	41.9	40.2
	データの活用	40.5	50.5	49.4
観点	知識・技能	50.0	58.8	57.3
	思考・判断・表現	34.5	42.7	40.3



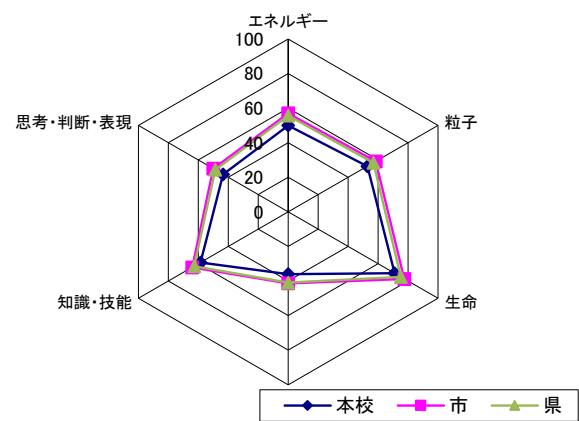
★指導の工夫と改善

分類・区分	本年度の状況	今後の指導の重点
数と式	平均正答率は、市より9.9ポイント、県より7.2ポイント低い。 ○与えられた正の数と負の数から、答えを求めることができる。 ●与えられた文章題から1次方程式を立式し、正確に解くことについて理解できていないことが課題である。	○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの ・継続的に反復学習を行い、符号や計算ミスに注意を払いながら計算する習慣を身に付けさせていく。 ・与えられた文章題に対して、数量関係に注目しながら文字を使って立式させ、その式を利用して問題を解けるようにさせる。
図形	平均正答率は、市より7.2ポイント、県より5.6ポイント低い。 ○立方体から三角柱を取り除いた立体のねじれの位置関係については理解できている。 ●回転移動したときの回転の中心や角度について理解できていないことが課題である。	・コンパスを使って作図したり、図を丁寧に書かせるなど図形を用いた活動をたくさん取り入れ、図形に関する様々な知識の理解を深めさせる。 ・面積や体積の求め方を理解させ、公式を確認し、繰り返し練習問題に取り組ませていく。
関数	平均正答率は、市より7ポイント、県より5.3ポイント低い。 ○反比例の関係におけるx、yの値から、反比例の式を選ぶことができる。 ●与えられた表から、グラフをかくことができていないことが課題である。	・関数についての理解が不十分である。式や表、グラフの関係を確認させながら、2年の1次関数の分野でも比例のグラフとの関連を確認しながら指導していくようにする。 ・文章題では文章を正確に読み解けるように、どの単元でも指示語をなるべく使わず数学用語をしっかりと使用し、生徒が自分たちで説明する機会を増やし、数学的語彙力の向上に努めていく。
データの活用	平均正答率は、市より10ポイント、県より8.9ポイント低い。 ○ヒストグラムから、その総度数を答えることが理解できている。 ●データの傾向について、相対度数を使って説明することができていないことが課題である。	・重要語句やデータから読み取れる情報を適切に選択できる力を身に付けさせる。 ・データの活用における知識・技能、そして考え方は、他教科や総合的な学習の時間などでも活用できるように、機会を設け、学習したことが生きる場面を多く設定していきたい。

宇都宮市立鬼怒中学校 第2学年【理科】分類・区分別正答率

★本年度の県、市と本校の状況

分類	区分	本年度		
		本校	市	県
領域等	エネルギー	50.0	57.0	55.7
	粒子	52.9	58.6	56.9
	生命	71.0	77.5	75.2
	地球	36.0	41.4	40.9
観点	知識・技能	58.6	64.1	62.8
	思考・判断・表現	43.6	50.1	48.7



★指導の工夫と改善

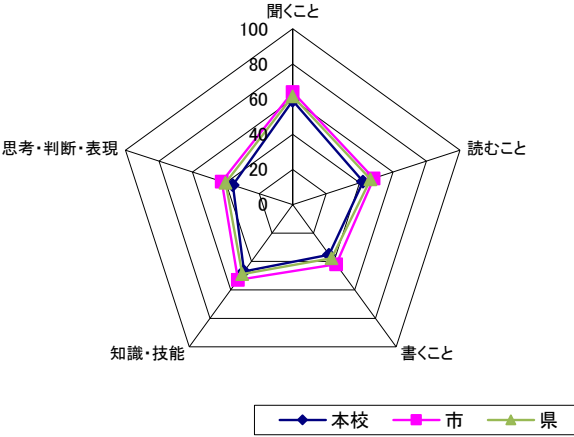
○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

分類・区分	本年度の状況	今後の指導の重点
エネルギー	平均正答率は、市より7.0ポイント、県より5.7ポイント低い。 ○ばねの実験での選択式の考察、考察の検討の正答率は県の平均より高い。 ●光の問題の正答率は県の平均より低い。	・光の実験など、結果のブレが大きく出してしまうような実験では、なるべく正確な理想とする結果を示し、理解を深めさせる。 ・表、グラフ、計算などでchromebookを活用するなど、関心をもってデータの処理を学べるように授業の改善を図る。
粒子	平均正答率は、市より5.7ポイント、県より4.0ポイント低い。 ○酸素の発生方法、確認方法の正答率は県の平均より高い。 ●実験方法、実験に即した結果、考察の正答率は県の平均より低く、短答式、記述式は5ポイント以上差がある。	・実験を行ったことに対しての問題での正答率が低いので、実験の前提や過程、結果、考察の筋道を立てて説明する時間を十分にとる。 ・文章で答える問の無回答率が高いため、自分の思考を表現する時間を増やしたり、知識を活用して取り組む応用問題などを扱うようにする。
生命	平均正答率は、市より6.5ポイント、県より4.2ポイント低い。 ○動物の選択式問題、短答式問題の正答率は県の平均より高い。 ●植物の問題の正答率は県の平均より、5ポイント以上低い。	・植物の映像や現物を取り入れる機会を増やし、植物の興味関心を高められるようにする。 ・植物を観察する際、スケッチだけではなく茎・葉のつくりや手触りを言葉で表現し記述させることで、感じたことを言語として表現する場を設け、語彙力の向上に努めていく。
地球	平均正答率は、市より5.4ポイント、県より4.9ポイント低い。 ○マグマの粘り気の問題では県の平均より正答率が高い。 ●県の平均より正答率が全体的に低く、5ポイント程度差ある。	・地層や火山活動などの映像の視聴を積極的に取り入れ、視覚的に捉えさせる工夫をする。 ・地層のでき方を整理することで、当時の時代や環境を推測させる力をつけさせる。

宇都宮市立鬼怒中学校 第2学年【英語】分類・区分別正答率

★本年度の県、市と本校の状況

分類	区分	本年度		
		本校	市	県
領域等	聞くこと	59.1	64.0	61.6
	読むこと	42.1	48.4	46.6
	書くこと	35.2	42.0	37.8
観点	知識・技能	47.0	52.9	48.9
	思考・判断・表現	35.8	42.4	40.1



★指導の工夫と改善

○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

分類・区分	本年度の状況	今後の指導の重点
聞くこと	平均正答率は市より4.9ポイント、県より2.5ポイント低い。 ○日常的な話題について、話の概要を捉えることができる。また、イラストを見て答える問題への正答率も良好である。 ●疑問詞を用いた疑問文に対して適切な答えを導き出す問題の正答率が低い。	・教師の発話で重要語句を繰り返し使うようにして、インプット回数を増やしていき、生徒の語彙力の向上を図る。 ・音読の活動を取り入れて音と文字とを繋げていくように指導していく。 ・言語活動の時間を増やして生徒の英語の使用時間を長くしていくなど工夫していく。また、ALTを活用し対話場面を増やしていく。
読むこと	平均正答率は市より6.3ポイント、県より4.5ポイント低い。 ○日常的な話題について状況などから判断して、必要な情報を読み取ることができる。 ●グラフや表から情報を正確に読み取ることができていない。	・読む活動では、何に注意して読むかを伝えて、生徒が必要な情報を素早く読み取れるように指導を工夫していく。 ・文字だけでなく、グラフや表、手紙、ポスターといった様々な形式の英文から情報を読み取ることができる力を養う。そのために、そういった英文を読むことを取り入れていく。
書くこと	平均正答率は市より6.8ポイント、県より2.6ポイント低い。 ○空欄補充や与えられた情報に基づいて英語を書くことができる。 ●無回答率が高い。特に、まとまりのある文章を書く問題に対しての無回答率が市や県よりも15ポイント以上も高い。	・言語活動を通して発信語彙を増やしていけるよう工夫して指導を行っていく。 ・まとまりのある文や自分の考えなどを相手に伝えるための活動を取り入れて、表現力や語彙力を高めていけるように指導する。

宇都宮市立鬼怒中学校 第2学年 生徒質問調査

★傾向と今後の指導上の工夫 ○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

○「毎日の生活が充実していると感じている。」への肯定的な回答率は89.7ポイントと県の平均と比べて2.1ポイント高い。学校行事や学年行事、部活動など学習以外での生徒の活躍場面があったことが要因であると考えられる。得意なことで自信を持たせ、多くの事にチャレンジできるように支援していく。

○「自分にはよいところがあると思う。」の肯定的な回答率は約6ポイント、また、「自分のよさを人のために生かしたいと思う。」の肯定的な回答率が5ポイントとそれぞれ県の平均よりも高い。前向きな気持ちを学校生活にも生かして生徒の力を伸ばしていけるようにしたい。

●家で宿題をやる習慣は身に付いてきているが、予習や復習など自らの課題や状況に合わせた学習に取り組んでいない割合が県の平均と比べて10ポイント以上高く、課題が見られる。

●「難しいことでも、失敗を恐れないで挑戦している。」や「自分の行動や発言に自信をもっている。」の肯定的な回答率が約2ポイントずつ低い。学校生活を通して、生徒にチャレンジできる場面を設けられるよう支援していく。

●「漢字の読み方や言葉の意味が分からないときは、辞書を使って調べている。」や「分からない国名や地名があったら、インターネットや地図帳などを使って調べている。」などの質問項目に対しての肯定的な回答の割合が県の平均と比べて低い。自ら進んで学習に取り組む姿勢や分からないことがわかったときに感じられる喜びを授業の中で感じさせていき、各々の学習活動にも前向きに取り組めるようにスモールステップで課題に取り組ませて、賞賛できる機会を設けていくよう工夫をする。

学力向上に向けた学校全体での取組

★学校全体で、重点を置いて取り組んでいること

重点的な取組	取組の具体的な内容	取組に関わる調査結果
語彙力と読解力の向上	毎週木曜日の朝の活動の時間に、読解力を高めるための補助教材を全校同時に実施する。	「漢字の読み方や言葉の意味が分からないときは、辞書を使って調べている」という質問に対して、肯定的に回答している生徒の割合が、県の平均と比べて10.1ポイント低い。

★学校全体で、今後新たに重点を置いて取り組むこと

調査結果等に見られた課題	重点的な取組	取組の具体的な内容
進んで語彙を増やしたり、言葉に関する理解を深めたりする意欲や態度に課題が見られる。	語彙力や読解力を向上させる取組を、国語科だけでなく、各教科で行う。	各教員が校内研修の一環で行う授業公開において、各教科の特質に応じて、読解力や語彙力を向上させる工夫を行う。